

可児市議会議長 川上 文浩 様

報告者

可児市議会議員 前川 一平

広報部会行政視察報告書

行政視察を行いましたので、その概要を下記のとおり報告します。

記

1. 日 程 令和8年1月21日（水）13：30 ～ 15：30
2. 視 察 先 いなべ市議会
3. 視察事項 いなべ市議会における議会だよりについて
インスタグラムなどの各種 SNS・HP の運用について
4. 出 席 者 広報部会員8名
（部会長）前川一平（副部会長）天羽良明
（部会員）富田牧子、川合敏己、山田喜弘、松尾和樹、田口豊和、酒向さやか
5. 視察結果と具体的内容

（1）議会広報紙における「読みやすさ」の具体的な工夫

いなべ市議会の広報紙では、専門的な議会・行政用語を可能な限り避け、やむを得ず使用する場合も、紙面の空きスペースを活用して用語解説を配置していた。

また、強調すべき部分は太字にすること、発言や要点は吹き出し形式にすること、Q&A形式を多用し短文構成とすることで、議会に馴染みのない市民でも内容を理解しやすい構成となっていた。

特に見出しについては、「定例会の様子」「一般質問」といった事実列挙型の表現ではなく、「暮らしを支えた予算の行方」や「市民の声を届ける一般質問」など、市民生活との関係性が直感的に伝わる表現に工夫されており、議会活動を「自分ごと」として捉えてもらう意図が明確であった。

▶ 可児市議会での改善点

現在の議会だよりから「見出しの言い換え」や「吹き出し・Q&A形式の導入」「用語解説欄の常設」など、紙面構成の工夫により、読みやすさを大きく向上させる余地がある。

(2) インデックス導入による構造の明確化

いなべ市議会の広報紙では、各ページ端にインデックスを設け、「どのページに何が書いてあるか」を一目で把握できるようにしていた。これは辞書のように目的のページを探しやすく、特に高齢者層にとって有効な工夫であると感じた。

▶ 可児市議会での改善点

議会だよりにおいても「定例会」「一般質問」「委員会」など、区分ごとのインデックスを設けることで、読者のストレス軽減につながると考える。

(3) 表紙・写真の工夫と外部連携

いなべ市議会では、「中身を読んでもらうための表紙づくり」を強く意識しており、観光協会との連携による写真提供や、目を引く構図・色使いが工夫されていた。

表紙に目次を配置することで、「中に何が書いてあるか」が直感的に分かる点も特徴的であった。

▶ 可児市議会での改善点

観光課・観光協会との連携や、表紙に簡易目次を掲載することなどにより、広報紙への関心を高める工夫が可能であると感じた。

(4) 議案・一般質問記事の深掘りとデジタル連動

いなべ市議会では、議案について単なる結果報告ではなく、内容を掘り下げて説明するとともに、市民からの意見募集を行い議会との双方向性を意識していた。また、一般質問記事には、議員ごとの動画や発言通告書へのリンク（二次元コード）を掲載し、紙面から動画等へつながる構成となっていた。

▶ 可児市議会での改善点

一般質問記事に動画へのリンク（二次元コード）掲載するなどの導線づくりにより、議会の議論をより深く伝えることができると考える。

6. SNS 運用に関する具体的な学び

いなべ市議会では、SNS 運用において「発信の目的」「投稿内容の範囲」「責任体制」を明文化し、トラブル防止と継続的発信を両立していた。また、Canva 等のデザインアプリを活用したデザイン統一や、閲覧数・反応の分析などによる投稿時間帯や表現方法の改善などを繰り返し行い、見てもらえるための工夫と努力を行っておられた。

▶ 可児市議会での改善点

「デザインの統一化で見やすく」「SNS 投稿記事などの作成工程での取り決め事項を明文化」「効果測定に基づく改善」を検討する必要がある。

7. 広報以外の取り組み 市民参加・議会全体の活動

いなべ市議会では、議会広報に加え、市民が「気軽」に参加できる対話の場づくりや、議会への意見箱の常設、子ども・若者向けの議会企画など、市民が参画しやすい取組が進められていた。さらに会期終了後の振り返り会議や議会活動の評価を行うことで、マンネリ化を防ぎ、質の向上につなげている活動もされており、可児市議会でも今後、導入や改

善の必要がある。

8. まとめ

今回の視察を通じ、いなべ市議会は「常に改善を続ける姿勢」を議会全体で共有していることが強く感じられた。可児市議会においても、広報紙・SNS・市民参加を一体的に捉え、市民にとって分かりやすく、身近で信頼される議会を目指し、段階的な改善を進めていく必要がある。

研修会の様子



庁舎内視察

ご意見箱



議会へ寄せられた要望の掲示



以上、報告いたします。